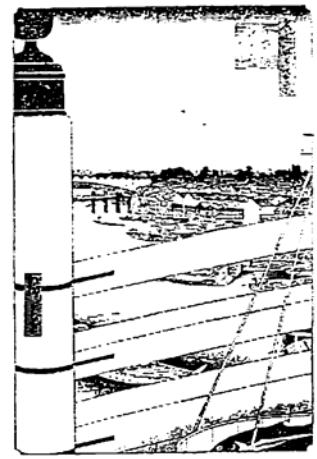


都々逸 実とまことの 種さえまけば
離まいとの 花が咲く

約束の鐘も九つ もう来るはずの
窓に気になる 流れ星

他人に頼めば 浮き名が恐し
二人じゃ文殊の 智意も出ず



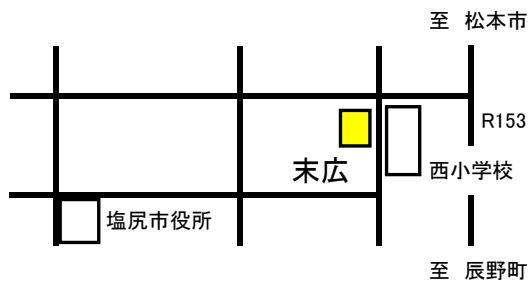
サラリーマン川柳

パソコンと 口喧嘩している 60歳
そっと起き そっと出かけて そっと寝る
休日は 五時に起きても 眠くない
読めるのに 書く事出来ぬ 漢字かな
仕事より 良く褒められる 隠し芸

お隣の 芝生は青い うちはない
暇そやね 言ってる貴方は もっと暇
その提案 在任中は 待ってくれ
手を抜いて やった仕事を 褒められて
ポリシーは ただ何となく 何となく

おいしいラーメン屋さん

【長野県 塩尻市編】



赤いためき

買い物を頼まれ、赤いためきを・・・と
”緑のためき”と”赤いきつね” いったい
どっちを買えばいいのでしょうか。

夫婦喧嘩

夫婦喧嘩を見ていたら、旦那が「馬鹿者
と言うところ、「バケモノ」と言っていた。

江戸こぼなし [鑑賞]

「今年の出来は格別とのこと。さっそく”目の保養”にやって参った」
「さあさあ、心ゆくまで堪能なされ」主人が、丹精して育てた菊をひとつお見せして回り
「今年の新花は土蔵の裏じゃ」と、腰元を呼んで案内させる。ややあって「お見事、お見事
じゅうぶんに楽しませてもらった」と、褒めながら帰って来た客人の両膝を見て「いかがなされた
その膝の土は」声を掛けられる、客人あわてて「いやあ、これはこれは・・・」と、言いながら
両膝の土を払った。後ろの腰元、気づかれぬよう、そっと尻の土を払った。

江戸のことわざ [腹も身のうち]

大食漢に対して「馬鹿の大食い」「怠け者の大食い」「痩せの大食い」などがある。大食を健康上から戒めたことわざに「腹も身のうち」「腹八分目に医者いらず大食は命の取り越し」などがある。

江戸の大食・大酒会は、1817年両国柳橋の萬八楼の会が名高い。茶漬けの大会で三河島の「三右衛門」が茶漬け68杯、浅草の「和泉屋吉蔵」が54杯、小日向の「上総屋茂左衛門」が47杯とある。他の会にも、酒組・菓子組・蕎麦組等があった。

数学の時間

ドライブで、行きは時速60キロで走り、帰りは混んでいて、20キロで走りました。もちろん同じ道を往復したわけですが、往復での平均の時速は何キロ？



スタグフレーション

スタグネーション(停滞)とインフレーション(物価上昇)の合成語。景気が停滞しているのに、物価上昇率が高い状態を言う。普通は景気が落ち込めば物価も下落し、景気が加熱すれば物価上昇率が高くなる。ところが、景気が落ち込んでいるのに、物価上昇率だけが高くなることもまれに出てくる。例えば、原油価格が高騰したのに、原油の輸入依存度が高い日本では、景気が落ち込むが他の物価にハネ返って、物価は上昇する。

軍隊の編成

第二次世界大戦の日本陸軍の歩兵の編成はつぎのようです。
分隊は約12人。四個分隊で一個小隊。四個小隊で一個中隊。一個中隊は200人位。
三個中隊に重機関銃や大砲隊がついて一個大隊。一個大隊は600人～800人位。
2～3個大隊に連隊砲や通信がついて一個連隊。一個連隊は約2000人四個連隊に砲兵、工兵がつき一個師団。一個師団は1万人以上。師団がいくつか集まって方面軍。

入社試験

面接の時「家業を言って下さい」と言われ、緊張のあまり「かきくけこ」と答えた。

近藤 勇 [1834～1868]

旧幕臣・新撰組隊長。武蔵多摩郡石原村に生まれる。剣を近藤周助に学び、63年幕府の募集に応じ新撰組に入り後隊長となる。京都地方勤皇派浪士の取り締まりにあたり勇名をあおぐ。68年鳥羽伏見の戦い以後関東に帰り、官軍と甲州勝沼に戦い下総流山に陣し敗れる。武士をめざし幕府のために命がけで戦いここに生涯を閉じる。